歴史は形を変えて繰り返す！コロナ状況下に学ぶ企業経営

「昭和の名経営者（財界総理「石坂 泰三」）の経営の真髄に学ぶ」

中小企業診断士・社会保険労務士・販売士
大野実雄

●プロフィール
（オオノ　ジツオ）
メーカー、経営コンサルティングファームを経てオオノ経営労務事務所開設。「変化には変化でしか対応できない」を企業支援の基本としている。著書に「売れるように売れば必ず売れる」「働き方・生き方こころの軸」「勝つ企業」等がある。

1 「コロナ状況下」で先が見えない時代だからこそ昭和を代表する経営者に学ぶ

日本を代表する企業を育てた名経営者は、なにを考え、どう行動（考働）してきたのか。先が不透明なコロナ状況下だから、財界総理「石坂泰三」の経営の真髄（経営は学問でなく、常識）に学ぶ。

2 石坂泰三（いしざかたいぞう） 1886（明治19）年～1975（昭和50）年

①日本の財界人、経営者。逓信省を退官、第一生命保険に入社。第一生命保険、東京芝浦電気（現・東芝）社長を経て、第2代経済団体連合会（経団連）会長（在任、1956年（昭和31年）2月21日～1968年（昭和43年）5月24日）。経団連会長を4期、12年務めた。

②1938年（昭和13年）第一生命取締役社長に就任する。1947年（昭和22年）に辞任するまで、第一生命は中堅から大規模生命保険会社に成長した。

③1948年（昭和23年）東京芝浦電気取締役、翌年社長となる。東芝は当時、大労働争議のため労使が激突し倒産の危機にあった。あえて火中の栗を拾った形となった石坂は、真正面から組合と交渉し、6,000人を人員整理し、東芝再建に成功する。

④1955年（昭和30年）日本生産性本部初代会長、1957年（昭和32年）アラビア石油会長、1960年（昭和35年）東京オリンピック資金財団会長（1964年開催）、1963年（昭和38年）日本工業倶楽部理事長、日本万国博覧会協会会長（1970年（昭和45年）3月の大阪万博）

3 石坂 泰三のエピソード・名言（言葉には魂が宿る）

①人生はマラソンなんだから、百メートルで一等をもらったってしょうがない。

②伸びるためには、まず縮まることが必要だ。

③私だって、世捨て人や禅坊主ではない。だから金も欲しい。ぜいたくもしたい。しかし、いくら欲しくても得られない場合は、現状に満足して、働くしか道はない。不平を言ってもそれは得られるものじゃない。

④経営は学問ではない。経営は"常識"だよ。

⑤間が大切なんだよ。三味線でも間が大切というだろう？ 間が悪いと三味線もあほになる。

⑥誠実に、そして厳しく自分を管理することが出来ていれば、あなたの部下の管理の必要性はない。

⑦人にものを教えるということは、自分でも非常に勉強になるもので、学問のためにも、またその後のものの考え方の上にも大いに役立ったと思う。

⑧会社につとめて、いろんなこと教えてもらうんだから、金払ってもいいくらいだ。

⑨いま売っている製品を永久に売るということでは駄目で、先を見越して新製品を作ることが必要だ。

⑩私は東芝に来るにあたって、自分の腹心というようなものは一人もつれて来なかった。単身乗り込んだわけである。それには理由がある。一人ならば出処進退が自由にできるが、人を連れて行った場合、その人を辞めさせて自分が残るわけにはいかないからだ。

⑪経営者のあり方などよく質問を受けるが、私に言わせれば経営に秘訣なしだ。よく勉強すること。これが経営者の任務。私は経営学を馬鹿にしているわけじゃありません。読んだことはないが、立派なことが書いてあるんでしょう。しかし、何か大変な秘訣が書いてあるだろうなんて思ったことは一度もない。そんなもの、もともとありっこないですよ。

⑫青年はすべからく素直たるべし。壮年はすべからく狸芸にでるべし。老人はすべからく、いよいよ横着に構えて、憎まれることを覚悟すべし。

4 石坂 泰三は現状の困窮（コロナ禍）をどう言うか …推測

①私は人生万事、小成に安んじろというのではない。小さな地位でも、一日一日を充実感を覚えながら働いておれば、必ず道は開けてくる。（コロナ禍）に不平不満をぶちまけるだけでは、道は真っ暗だ。一時の苦（コロナ禍）を忘れ、明日を夢見ながら、コツコツ働くしかない。

②人生のコースには人それぞれのペースというものがある。（コロナに振り回されず）自分のペースに合わせて、息切れず、疲れすぎをせず、ゆうゆうと歩を進めて、とにかくその行き着くところまで、立派に行き着けばよろしいのだ。

③（コロナ禍でも）ボクは大丈夫だよ、いろいろな引き出しを持っているから。

歴史は、今を経営する者がより良い事業を展開するために、先人が遺してくれた経営の鑑（かがみ）でもあります。

＊史実は諸説があります。本文とは異なる説もありますのでご了承ください。
＊イラストはイメージです。
＊参考文献：昭和時代年表（岩波ジュニア新書）、昭和時代（朝日新聞出版）、昭和の名経営者たち（日経BP社）、財界総理「石坂 泰三」（毎日新聞社）、もう、きみには頼まない「石坂 泰三の世界」（毎日新聞社）

ぎふ専研 ［岐阜商工会議所専門家研究会］ 当研究会は岐阜商工会議所に登録している各専門家25名が研鑽を重ね、企業や事業支援の実践に役立てることを目的としています。主な活動は、企業経営に関する法律、税務、財務、販売、事業承継、IT等との事例を通して各専門分野からの意見や提言を行い、企業最適化を図ることです。